

はじめに 審美補綴に取り組もう 2

1章 歯冠修復における審美補綴

| 確実な歯冠補綴をするための条件 11

1. 支台歯形成 11
 - 1) ダイヤモンドバーの開発 11
 - (1) 支台歯形成にどのような種類のバーを、何本使っているか? 11
 - (2) 効率よく形成をするには? 11
 - (3) 支台歯形成に必要なDBを特注して揃える 12
 - 2) 臼歯部Crの支台歯形成法 14
 - 3) 前歯部MBの支台歯形成法 18
 - 4) 小臼歯部（大臼歯も基本的に同じ）のMBの支台歯形成法 22
 - 5) 支台歯形成中の対合歯とのクリアランスの診方 25
 - 6) 最後臼歯を含むブリッジにおいて、最後臼歯の咬合高径が低い場合の対応 26
 - 7) 欠損補綴の支台歯形成法 27
2. 個歯・個人トレーの製作法 28
 - 1) 個歯トレーの製作法 28
 - 2) 個人トレーの製作法 28
3. 精密印象採得にはどの印象材を選ぶか? 29
 - 1) シリコンラバー印象材——付加型と縮合型の比較 29
 - 2) 回転練和板による縮合型シリコン印象材（トシコン®）の練和法 29
4. 咬合採得 30
 - 1) 咬合採得の目的 30
 - 2) 歯冠補綴の咬合採得材——パラフィンワックスは不適 30
 - 3) 歯冠補綴の咬合採得法 30
5. 前歯のMB補綴の症例 31
 - * 症例1 6前歯MB補綴のケース 31
 - * 症例2 審美障害の1|1を除去後、6前歯にMBのBrを装着したケース 36
6. 上下顎で左右臼歯部を含む歯冠補綴治療 39
 - 1) 前歯の補綴は、なぜ最後にしなければならないのか? 39
 - 2) 上下顎で左右臼歯部を含む歯冠補綴の留意点 40
 - (1) 咬合高径 40
 - (2) 咬合平面 40
 - (3) 歯冠補綴の順序 40

2章 局部床義歯における審美補綴

| 局部床義歯における審美性 42

1. 有床義歯の機能性・審美性 42
2. 不適合な局部床義歯の診査法 42
3. 不適合な局部床義歯の改造法 44
 - * 症例1 44

| 機能性の高い(よく噛める)局部床義歯の製作法 47

1. よく噛める審美的局部床義歯とは 47
2. カワラダ パーシャルデンチャー システム 47
3. 局部床におけるカワラダ デンチャー システムの概要 48
 - * 症例2 48

| 審美的な局部床義歯 50

1. コーヌス クローネ デンチャーを応用した全顎的な審美補綴の症例 50
 - * 症例3 50
2. ワイヤラッチ アタッチメント デンチャーの臨床 58
 - 1) ワイヤラッチ アタッチメント デンチャーの特徴 58
 - 2) ワイヤラッチ アタッチメント デンチャーの構造 58
 - 3) ワイヤラッチ アタッチメント デンチャーの製作手順 60
 - 4) 臨床例 62
 - (1) 前歯欠損補綴の症例 62
 - * 症例4 62
 - (2) 全顎的に歯冠補綴および欠損補綴をやり直した症例 69
 - * 症例5 69
 - (3) 咬合挙上をして、歯冠補綴および上下顎欠損部に
ワイヤラッチ アタッチメント De.を装着した症例 82
 - * 症例6 82

3章 総義歯における審美補綴

| 粘膜調整不要、装着直後からよく噛める総義歯を作る 96

1. よく噛める総義歯の条件 96
2. 従来の総義歯製作法で、噛める総義歯を作るのは難しい 97
3. 不適合な総義歯の改善法——初診時の段階で、主訴を解決する 97
 - * 症例1 98
4. カワラダ デンチャー システムで、真に機能性の高い総義歯を作る 101
 - 1) カワラダ デンチャー システムの一連の流れ 101

1章 歯冠修復における審美補綴

- 2) 咬合高径の決定法 103
- 3) 旧義歯による咬合採得 104
- 4) 治療用義歯の製作 105
- 5) 人工歯排列法 107
 - (1) 前歯部の人工歯排列 107
 - (2) 旧歯部の人工歯排列 109
- 6) 中心位の確立 111
- 7) 咬合調整 111
- 8) 辺縁封鎖 112
 - * 症例2 114

残存歯を抜歯しながら総義歯を作る 119

- 1. 義歯補綴には歯科小外科の技術が必須 119
- 2. 残存歯を抜きながらも、歯なしの期間を作らない総義歯作り 119
 - * 症例3 インプラント治療から20年を経て総義歯となったケース 119
 - * 症例4 上顎は増歯用義歯を作り、下顎は現在使用中の義歯から総義歯にしたケース 134
 - * 症例5 すれ違い咬合で現在の上下義歯を活用して総義歯にしたケース 139

とくに審美に留意すべき総義歯の症例 148

- 1. 反対咬合であった患者さんの総義歯 148
- 2. 顎堤のアーチが下顎が上顎より大きい患者さんの総義歯 148
- 3. 上顎前突であった患者さんの総義歯 148
 - * 症例6 上顎前突に加えて、全顎的に進行性の歯周病の多数歯を抜去して、総義歯にしたケース 149
- 4. すれ違い咬合の総義歯 156
 - * 症例7 すれ違い咬合で、脳血管系の持病があり、かつハーモニカ演奏を望む患者さんの総義歯のケース 156

おわりに 163



▪ 当院でのセミナー光景

